

「Contemplation7」

～ Who are you 自分を回復～

マタイ 16: 15-19

■ あなたは誰ですか？…

あなたは誰ですか？と聞かれた時に多くの人は名前と共に職業や住んでいる家…そういったものを答えます。けれど、これは私達のアイデンティティなのでしょう。確かにその人の職業ですし、その人が手にした財産であるかもしれませんが、これはすべて「物」です。自らが作り上げたものではありません。でも私達はそれを置き換えて「自分」にしてしまっているのです。国や地域性といったものもあります。その国や地域の人々が皆、似たような生き方をしているのであればそれは単純に自らを失っているだけなのです。自分が失われたので、相手に自らを置いて、物に自らを置いて自分を作り上げていくのです。自分が見失われているということは自分の使い方がわからないので、自分がどうすれば相手に届くかがわからず、どう接すれば理解してくれるかがわかりません。だからどこに行っても失敗することになります。私達はアダムとエバの時以来、神様の「愛の権威」がわからなくなったので権威を恐れるようになりました。その時から自分を守る生き方が始まったのです。そして、自分を守るために、何かを得るために「自分の価値」という大切なものを差し出してしまいました。だから「自分には価値がない」「自分は駄目な人間だ」「自分がわからない」…そうなったのです。(イバ 2: 8-13、ロマ 13: 1-5)

■ 一番最初に失ったものの回復を…

今日の聖書箇所其自然な会話のやりとりの中に Contemplation の締めくくりにふさわしいとても重要なものがあります。私達が一番最初に失ったものです。人と神様の存在また関係です。イエス・キリストはこれを回復するために来たわけですから。今日の聖書箇所の前で「人々は人の子を誰だと言っていますか。」とイエス様は弟子達に対して突然会話を投げかけます。弟子達は「バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。」答えます。するとイエス様は「あなたがたは、わたしを誰だと言いますか。」とペテロに聞きます。そしてペテロは「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と答えるわけです。彼はイエス様と3年間共に歩いて本当にこの方は神様だと思っていたのです。アダムとエバが罪を犯して神様から隠れたあの日から自分がわからなくなり、人を通して自らを見るようになった人間がもう一度神様とつながって見えるようになったのです。

■ Contemplation①～⑥のおさらい…

- ①神は裁判官 ダニエル I心を静める II W.W.J.D ? (What would Jesus do) 様ならどうする?
- ②羊飼いの声に I備える II道を整える III影響 IV W.W.J.D ?
- ③人生の回復 モーセ Iおき忘れ [失敗] II履物 III目的 過去を土台に
- ④神の国とその義 Iイエス様は生きている II知恵聞 受行 III刺繍の裏
- ⑤十字架の恵み I犠牲がある時 II赦し合う III自分を欺くな
- ⑥死 I自分を手放す [死] II散らす (与える) III平安を待つ

■ 自分を探していますか…

宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」というアニメがあります。突然未知の世界に迷い込んだ千尋と両親。美味しそうな食べ物がある店を見つけた両親は欲の

もむくままに食べて豚になってしまいます。千尋は両親を助けるために湯ばあばの元に行きます。すると、働くように言われ、千尋という名前も贅沢だと言われて名前の一部を取られ「千 - せん - 」となります。日本の八百万の神に支配された世界で人々が仕事のために自らを失って仕事の奴隷として生きている中で過去の愛がすべての縛られたものを回復させ、その人の本当の存在を取り戻すという内容です。ストーリー自体は聖書的ではありませんが、日本に置かれている今の私達が、名前を失って生きている姿が非常によく描写されている作品だと思います。私達クリスチャンも教会に行くと神様を信じるようになりましたが、このキリスト教も「宗教」になり兼ねません。私達の教会にいる時の態度と、世の中に出て行った時の態度は違いませんか？人と接する時の態度を神様と向き合うことができなくなった私達。こんなことを考えた時、私達が黙想をしなければならない最大のテーマは「自分」であると思うのです。一日の中で私達がどれほど自分を探しているのでしょうか。

■ シモンからペテロへ…

シモンという名前は「揺れ動く人」という意味です。ですから実際に揺れ動く人でした。ところが、そのシモンに対してイエス様は「あなたはペテロです。」とおっしゃいました。ペテロとは石という意味です。揺れ動くシモンが石のペテロになって、その石が合わさった大きな岩盤の土台の上にイエス様の教会を建てるとおっしゃったのです。揺れ動く者から揺れ動かない者へと名前を取り戻したのです。その後で「わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつなぐられており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」(マタイ16:19)と人が赦される権威を任せると言われたわけですから。

■ 我と神 我と汝 我と物…

マルティン・ブーバー (オーストリア出身のユダヤ系哲学者、社会学者。1878-1965) 著「我と汝」は私達が「我と汝」、「我と物」というものにだけに目がいったので二重の態度が私達の内にあるのだということを話しています。をぜひ読んでみて下さい。神様がアダムとエバを創造した時、神様は「我」として彼らを造りました。そして彼らは自分は神の御姿だとわかっていました。そして神様を見て自分を見ていました。神様と自分が「我と汝」でした。けれど、アダムとエバはお互いを見て自分を学ぶようになりました。二人が「我と汝」になってしまいました。そして、エデンの園から追い出されたので糧を得なくてはならなくなりました。したがって、自らの「物」が自らに置き換えられていったのです。社会的地位・富・名誉…そういったものです。ですが、これらを否定しているわけではありません。神様によって自らを見つけた時に私達はこの世にあっても栄えるんです。聖書には「受ける者より与える者になりなさい。」と書いてあります。

7つの黙想は…

自分を戻すための大切なツールです。人のことを悪く思い憎むのに何時間も費やすなら、自分自身を探すために10分真剣に考えてみて下さい。すると、自分を通して何かを見出します。不満ではなく願いが与えられます。戻りたくなるからです。7つの黙想の最後に平安が与えられます。この平安を持ってでしかこの地で祝福されことはできません。私達は神様の子供です。人々は私達からイエス・キリストを見ます。この世にあって正しい人であるように向き合うことができるなら、いつの間にかあなたはあなたになっています。

(要約者: 全本 みどり)

(12月4日)